

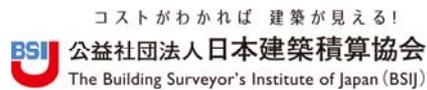
公益社団法人 日本建築積算協会・情報委員会

「BIM を活用した積算・コストマネジメントの環境整備」協議会
(建築BIM推進会議 第4部会)



BSJマスコットキャラ宝積(ほづみ)さん

第6回(令和4年3月15日 13:00~15:00)



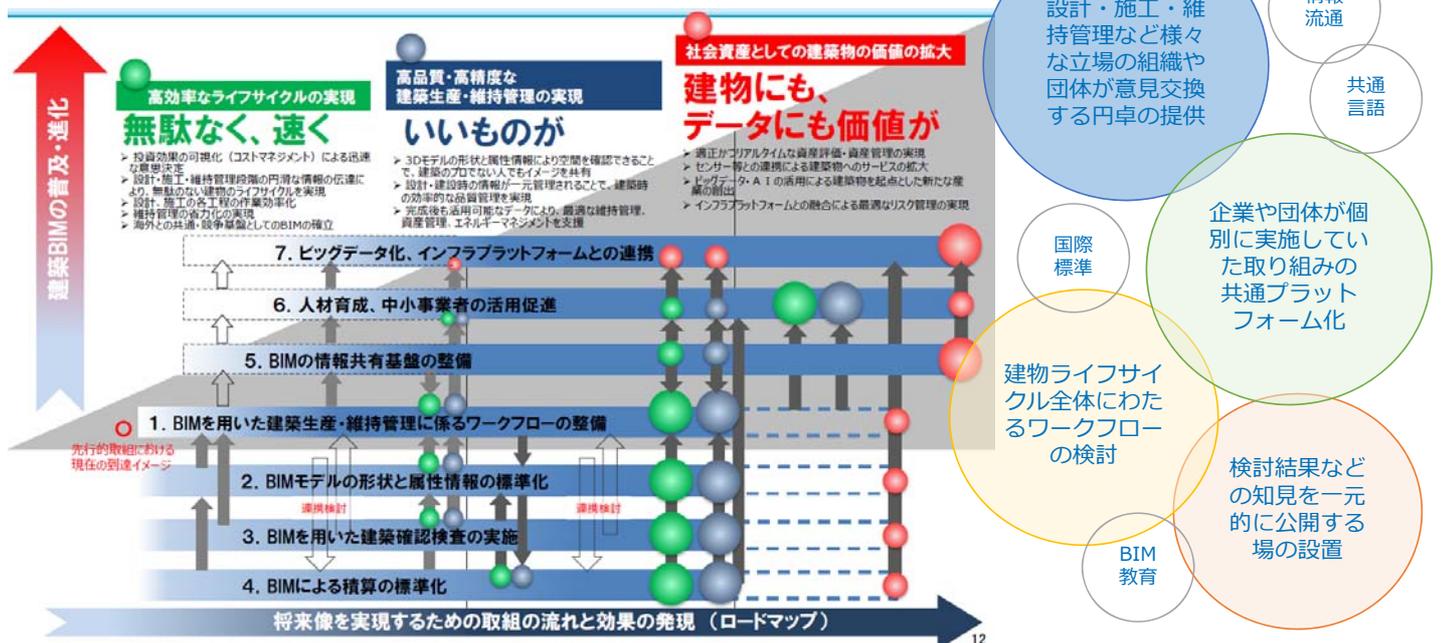
本日の予定

13:00~	開会
13:05~13:15	2021年度BSIJ協議会の活動について
13:15~13:30	2021年度BSIJ情報委員会の活動報告
13:30~14:15	各作業チーム(翻訳/LOC/設備/広報)からの活動報告
14:15~14:30	質疑応答
14:30~14:40	次年度(2022年)のBSIJ協議会(部会4)の活動予定について
14:40~14:55	全体に対する質疑応答および事務連絡等
15:00	閉会

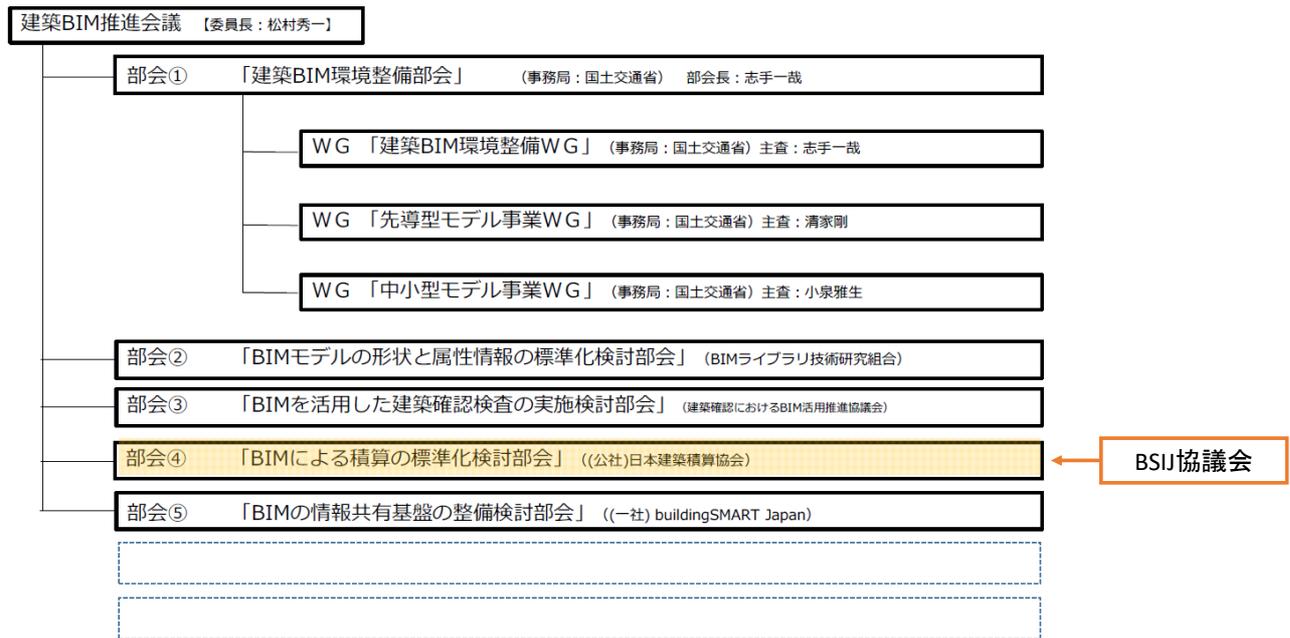
2021年度活動報告

BSIJ協議会(国土交通省建築BIM推進会議部会4)

建築BIM推進会議の構成



建築BIM推進会議を構成する部会とそのテーマ



国土交通省建築BIM推進会議資料より(出典：<https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html>)

5

BSIJ協議会(部会4)2021年度活動報告(3月8日国交省提出資料より)

- ①検討の位置付け、検討体制
 - BIMによるコストマネジメント手法の確立と、積算の標準化を進めることを目的に、「公益社団法人日本建築積算協会・規則」(2019年4月1日改訂)に基づき設置された『『BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備』協議会』が、建築BIM推進会議の下に設置する「BIMによる積算の標準化検討部会」として位置付けられています。
 - 検討体制：公益社団法人日本建築積算協会＋関係団体
- ②「将来像と工程表」における部会の役割：BIMによる積算の標準化
 - BIMによる形状及び属性情報から積算数量を算定可能とするため、建築物の部位・部分・設備等を一元的に管理・識別可能なコード化を整備するとともに、BIMで定義される建築要素単位での積算手法の標準化を図ります。
- ③検討事項
 - 分類体系の整備
 - コストマネジメント手法の確立
 - 分類体系を適用した積算手法の標準化

6

BSIJ協議会(部会4)2021年度活動報告(3月8日国交省提出資料より)

④今後の予定と検討方針

- 今後は、より具体的なLOC(Level of Costing)や、コストマネジメントにおける数量拾い、値入の考え方について整理していくため、他部会と連携し、建築のみならず土木分野への展開も見据えた物理的分類の共通認識を図るとともに、Uniclass2015日本語訳の精度を継続的に高めるため、より実践的な検証を重ね、その普及を図っていきます。
- さらに、分類体系によって整理されたBIMデータが、建設業界全体の社会インフラとして整備されることを見据え、建設業界全体でBIMデータを効率的に利活用できるような方針のもと、調査研究活動を行ってまいります。

⑤詳細について

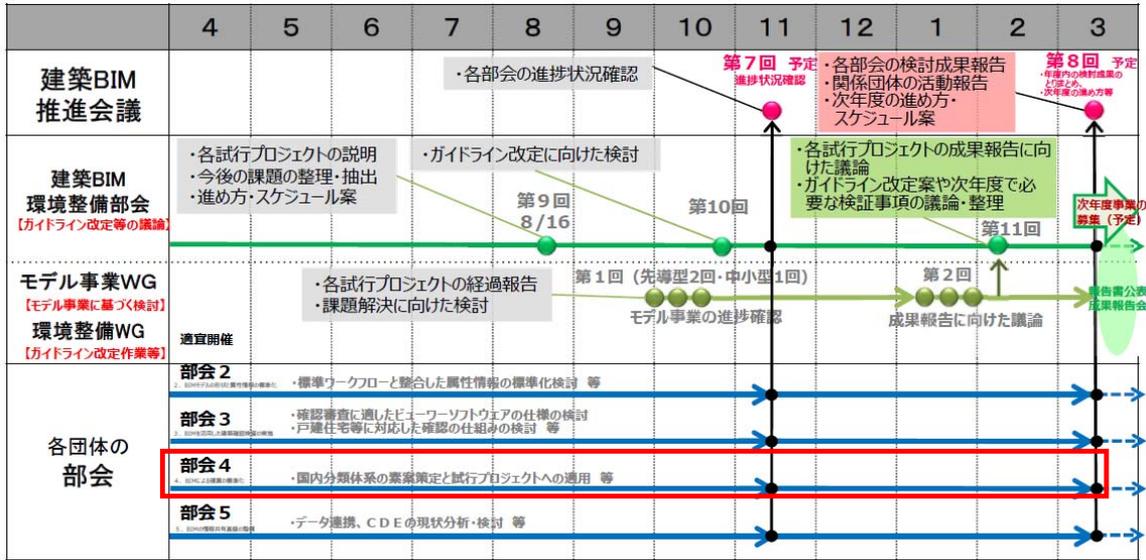
- 部会の活動報告については、(公社)日本建築積算協会・情報委員会「BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備」協議会(略称:BSIJ協議会)HP
(<http://www.bsij.or.jp/info/bsijconference.html?date=20201119>)にて公開しています。

7

部会4	2020年度		2021年度	2022年度
	上期 実施内容	下期 実施予定		
各年度の実施内容(概要)	<ul style="list-style-type: none"> • 国外における建築分類体系の翻訳と内容の整理 • BIMオブジェクトと分類の対応に係る調査分析 	<ul style="list-style-type: none"> • 国内分類体系の素案策定とモデル事業への適用 • 他の部会と連携し、成果をBIMオブジェクトへ実装 	他の部会と連携し、モデル事業に適用した結果を踏まえた実践的な分類体系の策定を行う	国交省や他の部会、関連団体等と連携し、活動成果を市井に普及させるための活動を行う
実施内容(詳細)	1) 国外における建築分類体系の翻訳と内容の整理。業務と照らし合わせた上での問題点等の整備 2) BIMオブジェクトの分類への対応に係る調査分析を行い、Uniclass2015と概念的分類との関係を取りまとめる	モデル事業(過去の実案件)を設定し、これに上半期で策定した分類体系を適用し課題の抽出と体系の見直しを行い、年度末に報告書にまとめる。建築分類体系利用方法の提案、そしてメリットが出てくる環境の提案	国際標準に則ったBIMモデル標準化案の策定と実証実験の完了	国際標準に則ったBIMモデルの確定と普及啓蒙活動の展開
成果・目標	(注:特に20年度末の成果物等を具体的に記入) <ul style="list-style-type: none"> • Uniclass2015をベースとしたBIM分類体系標準案の策定を行う • モデル事業を設定し、建築分類体系の検討を行う • 2020年度のモデル事業の成果を検証し、次年度以降の検討課題をまとめる • モデル事業適用後の成果を、NBSと連携するための整理を進める (※日本でUniclass2015を活用するための助言や支援をいただくことを目的とした協定を、NBSと積算協会で締結した) • 建築分類体系利用方法の提案 ・分類体系 Uniclass2015 日本語訳の公開とパブコメ実施(R3年1月末迄) http://www.bsij.or.jp/info/bsijconference.html		<ul style="list-style-type: none"> • 部会2～5と連携したガイドライン案の策定を行う • 設備概算のステージ毎の考え方と項目の整理を行う 	前年度の作業継続と新年度目標に則した活動を実施する

8

- ✓ 令和3年度は、令和2年度に引き続き、官民が発注する実際のプロジェクトにおいて、「建築分野におけるBIM標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン（第1版）」に沿って試行的にBIMを導入。建築BIM環境整備部会・WGでその検証の経過や結果について共有・議論。
- ✓ また、令和2年度の検証結果を基にガイドラインの改定について議論。
- ✓ 建築BIM推進会議は、引き続き各部会の進捗状況の確認及び検討結果の共有、関係団体の活動状況の共有を図る場として活用。



国土交通省 建築BIM推進会議Webサイトより <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html>

- 令和3年度建築BIM推進会議は、令和2年度同様、年2回程度の開催を予定。
- 各部会（部会1～5）及び関係団体では、本日の議論を踏まえ、引き続き検討を進める。
 - ・ 建築BIM環境整備部会（部会1）では、引き続き様々な課題等について官民の試行プロジェクトによる検証を進めつつ、令和2年度の検証結果を基にガイドライン（第2版）への改定について議論予定。
 - ・ 他の部会・関係団体等の公表等された成果物についても、ガイドライン（第2版）に適宜参照記載を盛り込む等、建築BIM推進会議として体系的に整理されたアウトプットを目指す。
- また、本日議論のあった「人材育成、中小事業者の活用促進」や「ビッグデータ化、インフラプラットフォームとの連携」については、モデル事業等で知見を得つつ、引き続き建築BIM推進会議にて現状の把握や今後の進め方等について議論したうえで、必要に応じて部会設置等も検討を行う。
 （特に次回の建築BIM推進会議では、各団体のBIM普及の取り組み等についてご発表をお願いしたい）

＜参考 令和元年9月「建築BIMの将来像と工程表」＞

将来像を実現するために建築業界に必要な取組と官民の役割分担	各取組を実現するために必要な検討事項
1. BIMを活用した建築生産・維持管理に係るワークフローの整備 (国土交通省+関係団体)	BIM標準ガイドライン(ワークフロー)、BIM実行計画書の標準策定(BEP)、BIM発注者情報要件の標準策定(EIR)、竣工モデル定義、部品メーカーとのかわり方の整理、BIMを活用した場合の契約、業務報酬のあり方、著作権
2. BIMモデルの形状と属性情報の標準化 (BIMライブラリ技術研究会+関係団体)	オブジェクト標準、属性情報の標準化、オブジェクトライブラリ、メーカーオブジェクト、ライブラリと仕様情報の連携
3. BIMを活用した建築確認検査の実施 (建築確認におけるBIM活用推進協議会+関係団体)	BIM2D審査、ビューワ、BIM審査、BIM検査、AI審査・検査
4. BIMによる積算の標準化 (公社)日本建築積算協会+関係団体	分類体系の整備、積算手法の標準化、コストマネジメント手法の確立
5. BIMの情報共有基盤の整備 (一社)BuildingSMART Japan+関係団体	国際標準・基準への理解促進、データ連携手法の確立、情報共有環境の整備、データ真正性確保技術の確立、デジタル証明技術の確立
6. 人材育成、中小事業者の活用促進 (一社)BuildingSMART Japan+関係団体	BIMマネージャー(仮称)、BIM技術者資格、BIM講習・研修
7. ビッグデータ化、インフラプラットフォームとの連携 (国土技術政策総合研究所・建築研究所+関係団体)	ビッグデータとしてのBIMの活用、インフラプラットフォームとの連携

- 【部会1、関係団体】ガイドライン（第2版）改訂について議論
 - 【部会2～5、関係団体】部会・関係団体間で連携しつつ、各課題への検討を進める
 - モデル事業等を行いつつ建築BIM推進会議で現状把握・進め方を議論（必要に応じて部会設置）
- ↑ 相互連携 ↓

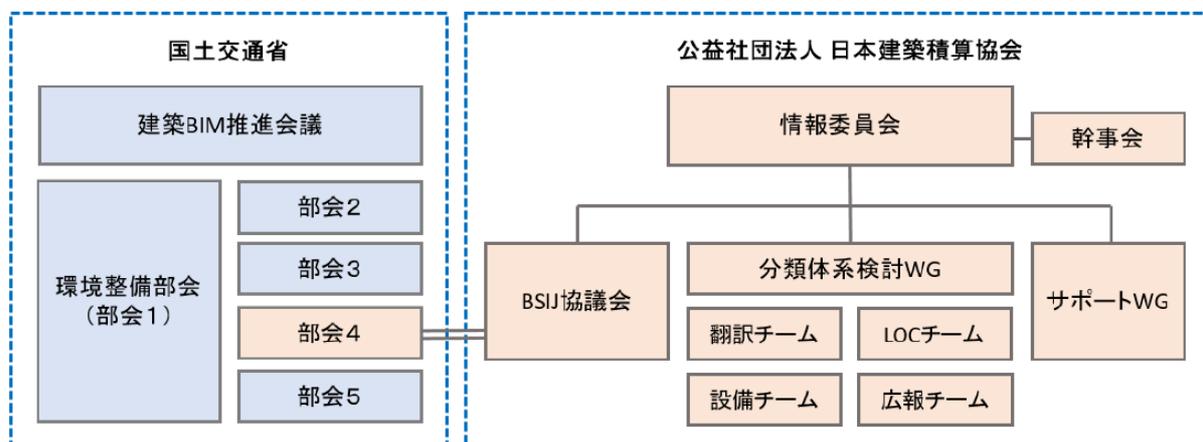
国土交通省 建築BIM推進会議Webサイトより <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html>

BSIJ情報委員会活動報告

分類体系検討WGからの報告

分類体系検討WG

- BSIJ情報委員会とBSIJ協議会(部会4)の関係は下図の通りである
- 分類検討WGは4つの専門チームに分かれて調査研究を実施し、適時ベテランのコストエンジニアで構成されるサポートWGにアドバイスを求め、これらの成果をBSIJ協議会として建築BIM推進会議と共有する



分類体系とは



「価値」を多くの国民が享受できるようにするには、
建物情報を記述する“共通言語(共通語)”を整備する必要がある。

1. デジタルデータとして機械処理できること(コード化)
2. 情報が一意に表現できること(Uniclass2015と分類情報の組合せ)
3. 建設業界内で共有されること(建築BIM推進会議への期待)
4. 日本語表現には別途マッピングが必要である(情報は人へ届く)

分類体系とは

- 図書館で...
図書館に本を探しに来た人は、**日本十進分類法の番号**に従って本棚を探せば、
目的の本に容易にアクセスできる(全国どこの図書館でも共通に探せる)。



- 建設プロジェクトで...
建設業務でBIMデータを扱う人は、**建設分類体系の番号**に従って情報を抽出できれば、目的の
情報に容易にアクセスできる(Uniclass2015 で世界共通)。

分類体系とは

- Classification Systemを部会4では”分類体系”と意識した。
- 分類体系は建設物のあらゆる情報を”標準言語・共通言語”としてつなげるもの(情報を媒体するもの)
- 建設物の分類の枠組みを規定した”ISO12006-2”はBIM等のIT化への対応した
- 世界的な分類体系として
Uniclass2015(UK)
OmniClass(US)

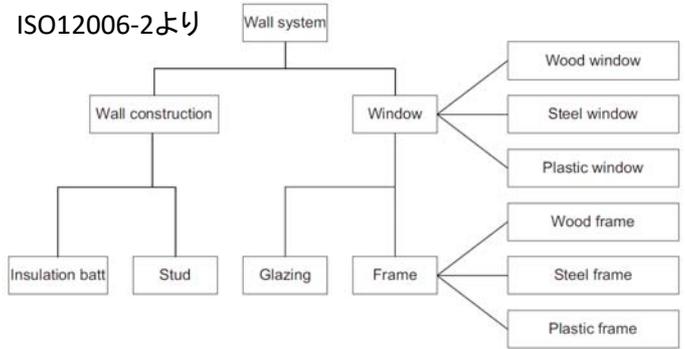


Figure 3 — Illustration of a combination of composition and classification

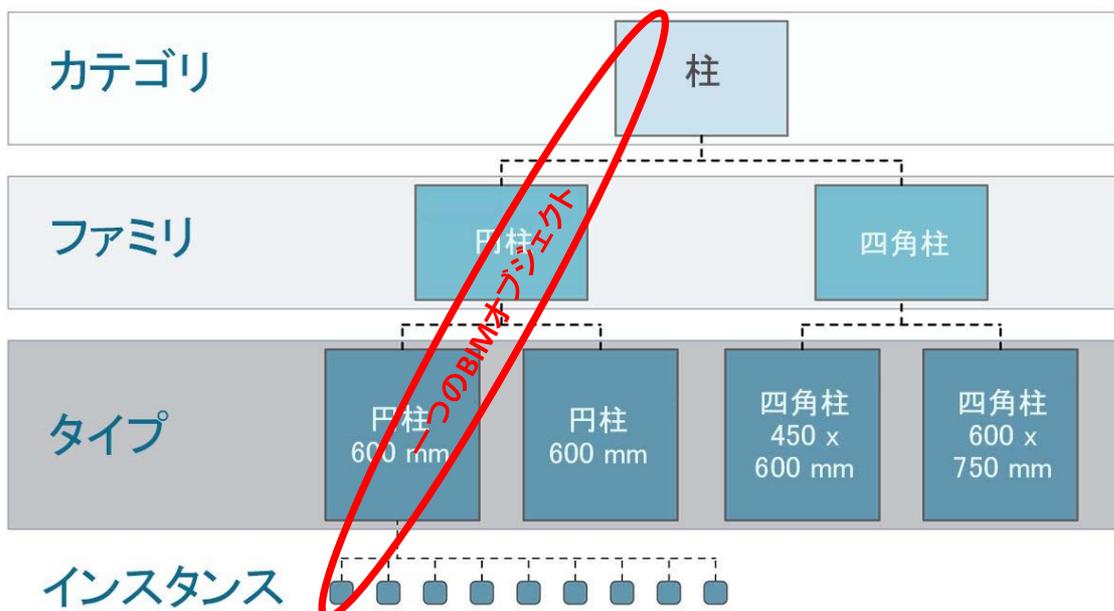
分類体系とは(世界の分類体系)

Download Classification	Format	Version info	Description	Country/Lang.	Last mod.
Onorm 624E-2	XML	1.0	Read more	German	04.01.18
Uniclass 2015	XML	January 2022	Read more	English	23.02.22
Uniclass 2	XML	December 2013	Read more	English	12.05.18
CAWS	XML	2020	Read more	English	28.04.20
SFG20	XML	October 2016	Read more	English	18.06.17
RICS NRM 1	XML	January 2005	Read more	English	14.06.17
RICS NRM 2	XML	January 2005	Read more	English	15.04.17
NBS Create	XML	July 2017	Read more	English	22.08.17
MasterFormat	XML	April 2008	Read more	English	17.05.18
OmniClass	XML	May 2012	Read more	English	12.04.18
ASTM UniFormat II	XML	E1027	Read more	English	18.05.18
2010 CSI UniFormat	XML	2016	Read more	English	17.05.18
NATSPEC	XML	2010	Read more	English	03.04.18
CBI (4 digits)	XML	2016	Read more	English	05.05.18
CBI (4 digits)	XML	2016	Read more	English	05.05.18
VBIS	XML	June 2020	Read more	English	19.04.20
SpeedSpec	XML	16	Read more	English	24.03.21
SeacPack	XML	31	Read more	English	03.01.20
CCS (DK)	XML	April 2017	Read more	Denish	29.06.17
CCS (EN)	XML	April 2017	Read more	English	29.06.17
BIMZAA (DK)	PLN	v.32	Read more	Denish	13.05.18
BIM7AA (EN)	PLN	v.32	Read more	English	09.04.18
Rumsfunktion – CC001.001.001	XML	001	Read more	Swedish	25.03.17
Rumsfunktion – CD002.001.001	XML	001	Read more	Swedish	25.03.17
Funktionskoder Regionservice – CD001.001.004	XML	004	Read more	Swedish	25.03.17
BIMTypeCode	XML	1.0	Read more	Swedish	19.03.16
NS 3451 – Bygningstetstabel	XML	2010	Read more	Norwegian	28.03.17
TALO 2000 Hankenimikkeistö	XML	2006	Read more	Finnish	22.05.17
TALO 2000 Building Component Classification	XML	2006	Read more	English	22.05.17
SINAPI	XML	11.08.18	Read more	Portuguese	23.04.17
SecClass5	XML	1.73	Read more	Portuguese	01.02.22
NL/SB 2019 (4 digits)	XML	2019	Read more	Dutch	18.05.20
NL/SB 2005 (4 digits)	XML	2005	Read more	Dutch	22.04.17
EcoQuestar	XML	2020	Read more	Dutch	20.01.21
STARBU-Element (6 digits)	XML	100	Read more	Dutch	28.05.18
BR/SB (2.4 digits)	XML	1000	Read more	Dutch	22.04.17
VMSW	XML	December 2016	Read more	Dutch	02.07.18
CCTB-2022	XML	01.08	Read more	French	08.12.2020
GuBIMClass ES	XML	1.0.2017	Read more	Spanish	03.02.17
GuBIMClass CA	XML	1.0.2017	Read more	Spanish	03.02.17

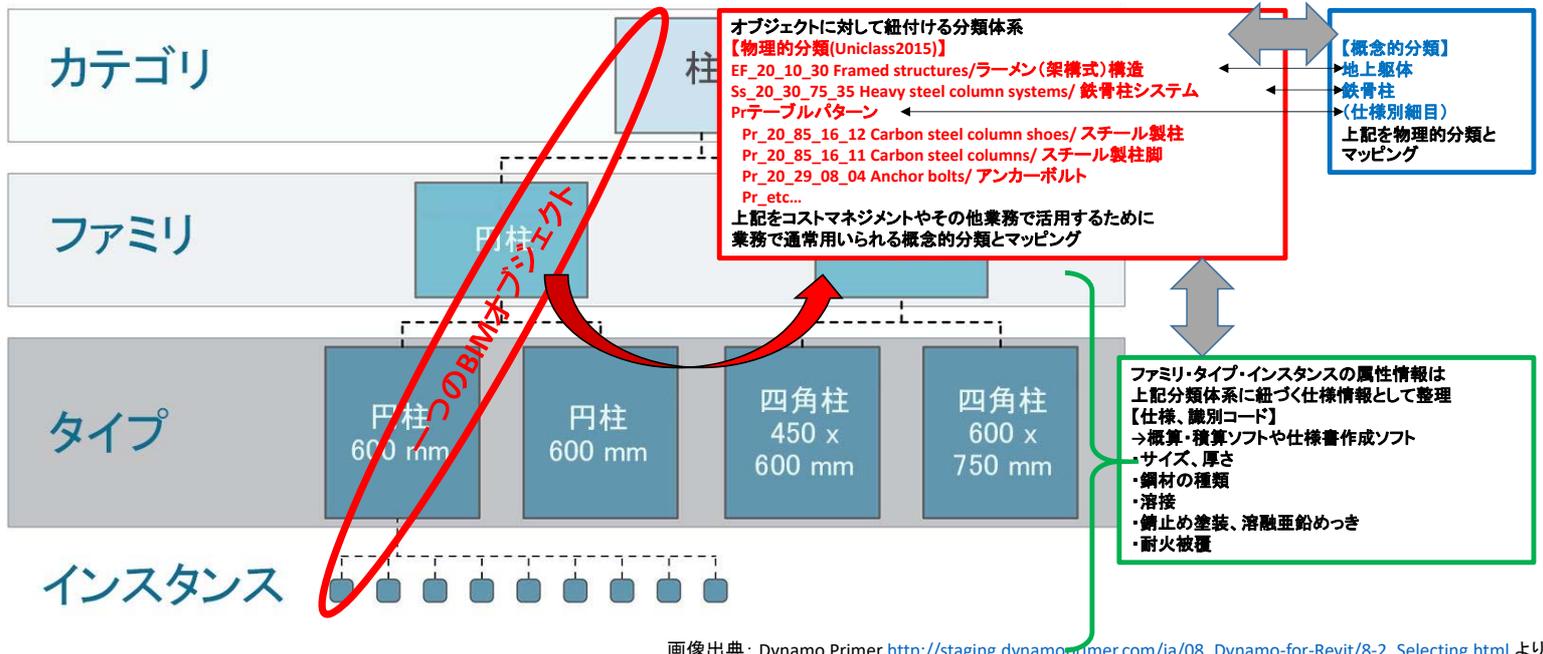
なぜUniclass2015なのか

- ISO12006-2に準拠し、BIMオブジェクトに対応
- 英語圏を中心とした多くの国の分類体系がUniclass2015ベース
- 上記理由に多くの国からフィードバックが集まる
継続的なメンテナンス(四半期ごとに更新)
- 分類の明快さ(ファセット型、各テーブル4階層まで)
- 建築のみならず土木やインフラ、プラント等にも対応
- グローバルスタンダードになりつつある

コストマネジメントでの活用



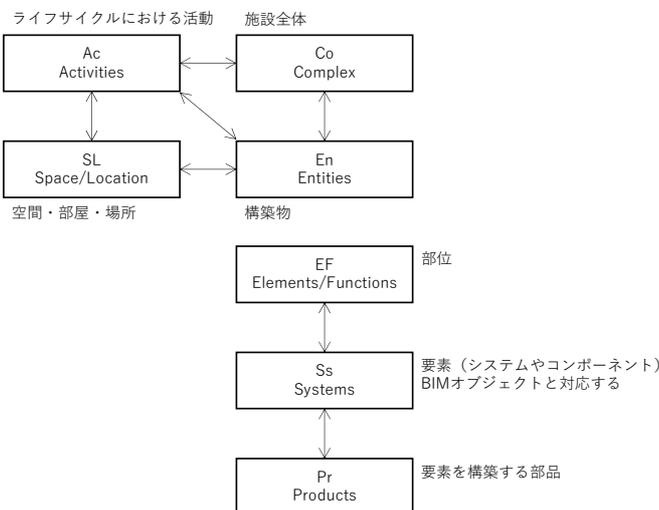
コストマネジメントでの活用



画像出典: Dynamo Primer http://staging.dynamoprimer.com/ja/08_Dynamo-for-Revit/8-2_Selecting.html より

建設分類体系による分類の補完

- ・ 分類とは「物事をその種類に応じてグループに分ける行為またはその過程」
- ・ ハッシュタグによる情報の検索と似た役割(いわゆるメタデータ)
- ・ 体系化されているので、分類番号の様々な応用を考えることができる



uniclass2015 (日本語版) Web検索システム β版

カテゴリ: 全て 検索: 窓 ss

Code	Title	日本語訳	ご意見
Pr_25_71_33	Glass and glazing sheets and profiles	ガラスおよび窓ガラスとその性能	投稿する
Pr_25_93_52_33	Glass fibre-reinforced concrete (GRC) bay window sills	ガラス強化コンクリート (GRC) 出窓枠	投稿する
Pr_30_59_98_34	Glass louvre window units	ガラスルーバー窓ユニット	投稿する
Pr_65_52_34_24	Double window steam sight glasses	二重窓ステームサイトグラス	投稿する
SL_20_50_29	Financial and professional services outlets	金融・専門家サービスの店舗 (又は窓口)	投稿する
Ss_25_10_35_97	Window wall glazed screen systems	ガラス窓壁システム	投稿する
Ss_25_30_15_66	Precast concrete security window systems	プレキャストコンクリート防犯窓システム	投稿する
Ss_25_30_95_26	External window systems	外部窓システム	投稿する
Ss_25_30_95_41	Internal window systems	内部窓システム	投稿する
Ss_25_30_95_96	Window walling systems	窓用壁掛け (壁式建具) システム	投稿する
Ss_25_38_20	Door and window hardware systems	ドア、窓、グートのハードウェア (金物) システム	投稿する
Ss_30_40_50	Metal sheet, fully supported roof and dormer covering systems	金属製屋根ドーマーカバー (天窓) システム	投稿する
Ss_30_40_50_05	Aluminium sheet dormer covering systems	アルミ製金属屋根ドーマーカバー (天窓) システム	投稿する
Ss_30_40_50_12	Carbon steel sheet dormer covering systems	ガルバリウム金属屋根ドーマーカバー (天窓) システム	投稿する
Ss_30_40_50_15	Copper sheet dormer covering systems	炭素鋼板金属屋根ドーマーカバー (天窓) システム	投稿する

18件中1から15まで表示 (全15,214件より抽出)

前 1 2 次

20

Property Setsと建設分類体系の組み合わせ

IFC4 Property Sets

建設分類体系 Uniclass2015

Pset_WindowCommon

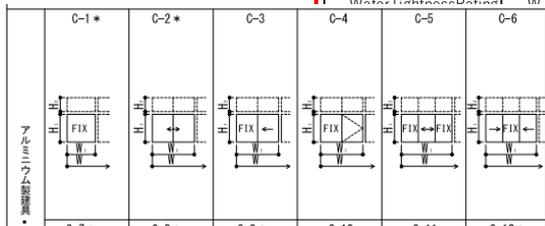
Pset_DoorWindowGlazingType

Reference	AW-1	GlassLayers	2	EF_25_30	Doors and windows
Status	新規	GlassThickness1	6	Ss_25_30_95_26	External window systems
AcousticRating	T-2	GlassThickness2	6		
FireRating	等級2	GlassThickness3			
SecurityRating	yes	FillGas	Argongas	Pr_30_59_98_02	Aluminium window units
IsExternal	TRUE	GlassColor	Clear	Pr_25_71_33_35	Glass panels
Infiltration	A-4	IsTempered	FALSE	Pr_30_31_76_78	Silicone glazing compounds and sealants
ThermalTransmittance	H5	IsLaminated	FALSE	Pr_30_31_76_77	Silicone construction joint sealants
GlazingAreaFraction		IsCoated	TRUE		
HasSillExternal	TRUE	IsWired	TRUE		
HasSillInternal	FALSE	VisibleLightReflectance	12.9		
HasDrive		VisibleLightTransmittance	77.2		
SmokeStop		SolarAbsorption	25.8		
Fire Exit	FALSE	SolarReflectance	27.8		
WaterTightnessRating	W-E1	SolarTransmittance	46.4		
		SolarHeatGainTransmittance	0.53		
		ShadingCoefficient	0.6		
		ThermalTransmittanceSummer	2.5		
		ThermalTransmittanceWinter	2.5		

赤線内: オブジェクトの属性情報
青線内: BIMデータの外部で管理する情報



COBie Type sheet
Name: C-2 or Double Sliding Windows



分類体系検討WG各チームの活動報告

各作業チームからの報告

設備チーム2022年度活動予定

• 設備概算に有用な分類体系を精査 uniclass2015 マッピング

日本商習慣 設計 施工プロセスとのすり合わせ

• 無形(モデル構築作業なく)で設備概算

設備設計プロセスにおいてオブジェクトがBIMモデルとして

形状 位置 品目 数量が特定できることは設計後半

設備元単位 面積単位で 設備積算に必要な項目を自動発生

BIM化 ⇒ オブジェクトから 数量積算

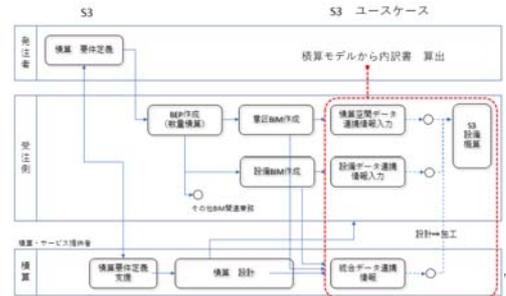


• 設備モデル 積算もできるモデルの作り方

提案 標準化へ

• 設備BIM積算ワークフロー ユースケースを提示

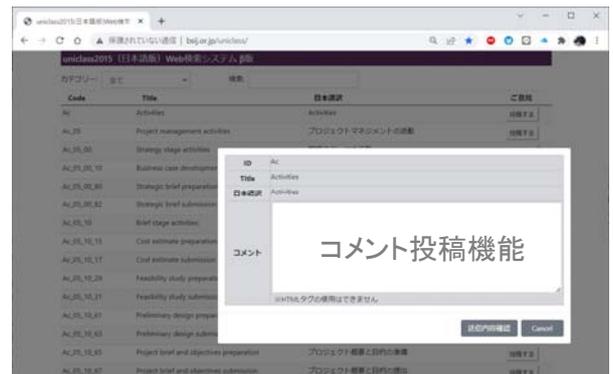
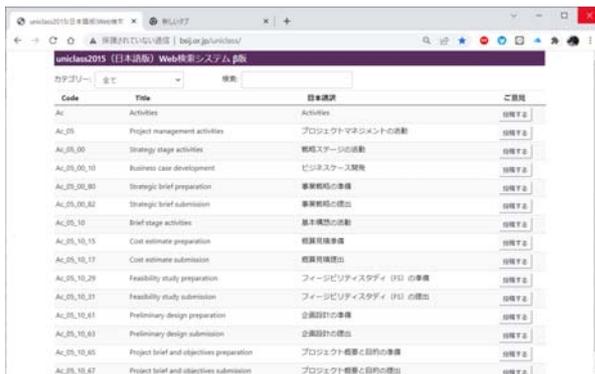
(サンプルデータ提供し社会実装へ)



広報チーム2021年度活動報告

• 2021年度下期に「Uniclass2015 Web検索システム(仮称)」の試作を実施

- これまで提供していた表計算(Excel)形式よりも検索性と可視性を重視した設計とし、インターネット接続環境さえあれば、OSを問わずPCでもスマホでも閲覧・検索が可能
- カテゴリによる絞り込みや、Uniclass2015コード、英語、日本語、その混在によるand検索が可能で、投稿機能の実装により、随時訳語修正などのパブリックコメント受付が可能
- 英国NBSの了承を得られ次第、BSIJ協議会HP(積算協会サイト内)で一般公開予定



広報チーム2022年度活動予定

- 2019～2021年度「PRISM業務報告書」をベースとし、内容を一般向けに一部変更し、BSIJ協議会HP(積算協会HP内)で公開
- BSIJ協議会(部会4)の活動コンセプトやサマリー等をユースケースや図表などを多めにしたガイドラインとしてまとめて公開
- シンポジウムの開催
 - テーマはガイドブックの内容や国交省BIMモデル事業・連携事業等を絡めた内容としたい(対象はBSIJ会員のほか、一般にも周知する)
 - youtube live 配信などのメディア活用も検討する
 - BIM教育機構(<https://bimeo.jp/>)等、他団体との連携も検討する

29

2022年度活動予定

BSIJ情報委員会 & BSIJ協議会

30

これからのBIM

- ・ 経営基盤のDXに必要なデータを入手するためのリクワイヤメントが重要



BSIJ協議会2022年度活動予定

- ・ より具体的なLOC (Level of Costing) や、コストマネジメントにおける数量拾い、値入の考え方についての整理とユースケースの作成
- ・ Uniclass2015の各テーブルに紐づく構成群を合成単価として整備し、概算業務に役立てるためのパターン例示等の作成
- ・ 他部会と連携し、建築のみならず土木インフラ分野への展開も見据えた物理的分類の共通認識を図るとともに、Uniclass2015の日本語訳を含めたその内容の精度を継続的に高めていく
- ・ BIMオブジェクトとDOI、GUIDとの紐付けや、IFCやCDEなどデータ環境との相互リンク思想、CI-NET分類、修繕計画用BELCA分類やIDEAライフサイクルアセスメント分類など社会基礎情報としての活用を検討する
- ・ 仕様書作成ソフトウェアや、それに代替する分類体系入力支援ソフトウェアなどの検討を行う
- ・ 分類体系によって整理されたBIMデータが、建設業界全体の社会インフラとして整備されることを見据え、建設業界全体でデータを効率的に利活用できるよう、部会4で抽出された課題等を業界内の関係機関と共有しながら、より実践的な検証を重ねて、BIMの普及につなげていく

部会4の活動報告および活動予定(建築BIM推進会議に3月16日提出予定資料)

部会 4	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)
各年度の 実施内容 (概要)	国外における分類体系の翻訳と内容の整理、国内分類体系の素案策定とモデル事業への適用	他の部会と連携し、モデル事業に適用した結果を踏まえた実践的な分類体系の策定を行う	国交省や他の部会、関連団体等と連携し、活動成果を市井に普及させるための活動を行う	仕様書作成ソフトウェアやそれに代替する分類体系入力支援ソフトウェアなどの検討を行う
実施内容 (詳細)	分類体系の翻訳と内容の整理を行い、業務と照らし合わせた上での問題点等を整理した Uniclass2015と概念的分類との関係を取りまとめ、モデル事業(過去の実案件)に適用し、課題の抽出と体系の見直しを行った	国際的協調のための建築分類コード体系の翻訳と改訂更新対応 建築分類コード体系の対応表作成とコスト概算法の整理 設備分野における既存の分類体系の事例収集と建築分類コード体系を用いたコスト概算法の整理 分類体系を利用した概算法の活用資料の試作	国際標準に則ったBIMモデルの確定と普及啓蒙活動の展開 より具体的なLOCやコストマネジメントにおける数量拾い、値入りの考え方についての整理 Uniclass2015の各テーブルに紐づく構成群を合成単価として整備し、概算業務に役立てるためのパターン例示等の作成	BIMオブジェクトとDOI、GUIDとの紐付けや、IFCやCDEなどデータ環境との相互リンク思想、CI-NET分類、修繕計画用BELCA分類やIDEAライフサイクルアセスメント分類など社会基礎情報としての活用を検討する
成果・目標 (2020・2021は実績、 2022以降は目標)	Uniclass2015をベースとした分類体系標準案の策定を行い、モデル事業を設定して分類体系の調査と検討を行った 日本でUniclass2015を活用するための助言や支援を目的とした協定を、英国NBSと積算協会で締結し、分類体系利用方法の提案を行った 分類体系 Uniclass2015 日本語訳を公開し、パブリックコメントを実施 (R2年12月～R3年1月)して、部会4の活動内容周知を図るとともに、Uniclass2015日本語版の翻訳精度向上を行った	S2 および S3 段階において、国際的な分類体系を日本の既存の分類体系に対応した形で活用し、BIMデータを用いた建築コストの概算法を確立するための分類体系の対応表を作成し、コスト概算法の技術的仕様の検討を行った。 併せて、設備分野の専門的知識を持つ者が、建築物のBIMデータ等を活用することにより設備分野のコスト概算が把握できる手法を確立するための事例を収集・整理し、建築分類コード体系を利用したコスト概算法の整理を行った。	他部会と連携し、建築のみならず土木やインフラ分野への展開も見据えた物理的分類の共通認識を図るとともに、Uniclass2015の日本語訳を含めたその内容の精度を継続的に高めていく。	分類体系によって整理されたBIMデータが、建設業界全体の社会インフラとして整備されることを見据え、建設業界全体でデータを効率的に活用できるよう、部会4で抽出された課題等を業界内の関係機関と共有しながら、より実践的な検証を重ねて、BIMの普及につなげていく。

BSIJ協議会へのご参加、ありがとうございました

- 次回の開催は、2022年夏頃を予定しております。
- お問い合わせは、BSIJ協議会座長:森谷までお願いいたします。
- moriya@bsij.or.jp